

平成23年度 串間市立市木小学校 学校関係者評価書

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

本年度の重点目標

- 学力向上及び個性を生かす教育の推進
- 地域に信頼される学校教育の推進
- 命を大切にし心豊かな児童の育成
- 教育環境整備の推進
- 体力向上と健康教育の充実

No. 1

評価項目	評価指標	具体的数値目標及び努力事項等	結果の考察・分析及び改善策	自己評定	外部評定	学校関係者評価コメント	
学力向上及び個性を生かす教育の推進	学習指導	○ 教育課程の工夫を行い基礎基本の定着、授業力の向上を図る	○ 新学習指導要領に応じた教育課程の見直しを図る。 ○ 3年生以上の国語において隣接学年で授業できるよう年間計画の修正を図る。	○ 習熟の時間を教育課程の中に位置づけることで計画的な実践が可能となり漢字や計算の力がついた。 ○ 6校時まで授業の可能な日数が増えて指導が充実した。	3.4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数のこともあるが、個に応じた指導は素晴らしい。 ○ 子どもたちが、学習しやすいような工夫がいろいろなされている。 ○ 決まったことはきちんとと言えるが、準備していないことについてもきちんとできるように今後ともスピーチの指導を継続してほしい。 ○ スピーチ集会では、広い視野を感じた。感じる力や想像力などが育っているのだと思う。 ○ 新聞に子どもたちの作品があると嬉しくなってくる。読む楽しみが出てくるのでこれからも投稿を頑張してほしい。 ○ カルタ大会も市木の子たちがよく頑張っていた。
	○ 授業力向上・教育課程の工夫を行い、基礎基本の定着を図る。	○ 基礎的・基本的事項の指導を徹底し、各単元テストの平均達成率85%以上を目指す。 ○ 少人数を生かした学習指導や複式指導の工夫をし、児童の80%以上が授業に対し、満足感をもてるようにする。 ○ 学習訓練を徹底する。 ○ 授業や習熟の時間において、基礎学力向上の工夫・改善を図り、個別指導の充実に努める。	○ 少人数であるため、各児童の実態に応じた指導を展開することができた。 ▲ 基礎的事項の定着には家庭との連携も重要であり、家庭学習の充実を図っているところである。 ○ 職員の研究授業も全員行うことができた。 ▲ 学習訓練の定着がもう少しである。 ○ Web 単元システムの活用を進めつつある。				
	○ 書く・話すなどの表現力を向上させる。	○ 児童がいきいきと自分の考えをスピーチできるようにするための場の設定を工夫する。 ○ スピーチに係わる学級での取組を充実させる。	○ スピーチ集会を繰り返し実施することにより自分の意見や考えをはきはきと発表できる児童が増えた。 ▲ 全体の場で話をするということについてまだ指導しなければならない状況もある。				
	○ くしま学の教材研究を進め年間指導計画の改善を図る。	○ 総合的な学習の時間全国大会(大阪大会)でくしま学に関わる充実した研究発表をする。 ○ 総合的な学習の時間の年間計画を見直しを進める。	○ 総合的な学習の時間に「くしま学」を取り入れた年間計画を整備し、地域の協力者を得て充実した授業及び研究発表を行うことができた。 ○ 研究所の研究をうけ本校独自に計画を整備していく。				

評価項目		評価指標	具体的数値目標及び努力事項等	結果の考察・分析及び改善策	自己評定	外部評定	学校関係者評価コメント
命を大切にし心豊かな児童の育成	生徒指導	○ 生命尊重を図る指導の充実を図る。	○ 常時指導の徹底を図る。 ○ 登校班における交通安全指導の徹底を図る。 ○ 全校朝会等全児童が集まる場での具体的な指導を行う。 ○ 家庭との連携を図る。	○ 校長自ら登校指導を継続し、登校状態が改善された。 ○ 毎日集団下校を行い、下校集合時に安全指導を継続した。 ○ 非常時訓練も計画的に実施できた。 ▲ 車での登下校について家庭と連携した指導を継続している。	3.2	3.2	○ デイサービスの訪問で心の教育ができていたと感じた。みんなが喜んでい る。 ○ 集団下校を行っているが、低学年の子どもたちが高学年が帰るまで学校に残してもらえるのはありがたい。 ○ 子どもたちの友達との関係では数値が下がっているが、転入生のこともあり問題意識が高まっているのだろう。思いやりがあるからこそその結果と思う。
		○ 人間尊重を基盤に捉えた人権教育の推進を図る。	○ 定期的に教育相談を実施し、悩み等に早期対応する。 ○ 体験活動や児童会集会活動の充実を図る。	○ 全職員で分担した教育相談を毎月業間時に実施した。 ○ 様々な人との出会いを通して、学びある体験活動を図ることができた。			
		○ 心の教育の推進のための道徳の時間及び読書活動の充実を図る。	○ 読書環境の充実を図る。 ○ 児童に年間低学年100冊以上、中学年80冊以上、高学年60冊以上の本を読むようにさせる。 ○ 読書貯金通帳の活用を図る。	○ 目標の1人100冊に向けて努力中である。図書管理システムを活用し、図書の貸出返却をシステム化すると共に、「くしまっ子読もうよ100冊」を奨励し読書に対する意欲を高めることができた。			
体力向上と健康教育の充実	保健体育指導	○ 児童がいろいろな運動に親しむ機会をつくりバランスのよい体力の向上を図る。	○ 新体力テストにおいて個人目標達成80%を目指す。 ○ 業間活動を通して、計画的・継続的に体力向上を図る。	○ 業間時に季節に対応した体力づくりを年間通して全職員で協力しておこなった。 ○ めあてを持たせて持久走の練習を進めることができた。	3.3	3.5	○ 昼休み時間、校長と子どもとのふれあいがとてもよい。体力向上にもつながっているだろう。 ○ 朝ご飯100%は家庭の協力もあって素晴らしい。 ○ メディア教育はよい取組である。これからも続けてほしい。
		○ 児童が各教育活動に集中して取り組むために、生活のリズムを定着させる。	○ ナイス市木っ子デイ親子チェックにおける基本的な生活習慣の定着率80%を目指す。 ○ 元気アップ通帳を基本とした基本的な生活習慣の育成を図る。 ○ 学校保健委員会を児童の健康増進の視点から内容を検討した上で実施する。	○ 元気アップファイルにより基本的な生活習慣の重要性を繰り返し確認することができ、児童の意識も向上してきた。(朝ご飯100%) ○ 元気アップファイル(メディア編)の活用で家庭での意識も変わり、ゲームやテレビ等のメディアとの関わり方が、適切になってきた。			

評価項目		評価指標	具体的数値目標及び努力事項等	結果の考察・分析及び改善策	自己評定	外部評定	学校関係者評価コメント
地域に信頼される学校教育の推進	地域連携	○ 総合的な学習の時間及び「くしま学」等において地域の人材を招聘する。	○ 地域に根ざした教育を推進をし、総合的な学習の時間や「くしま学」の充実を図る。	○ 地域素材や人材を教科等の指導の中で役立てることができた。	3.6	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな行事への学校の参加がありがたい。 ○ ホームページも大変よい。 ○ 地域の中で大切な役割を担っている。行事への職員の参加もありがたい。 ○ 保育園とのふれあい集会はとてもよかった。次年度も実施してほしい。
		○ 学校の様子を新聞、学校だより、ホームページで発信する。	○ 学校の Web ページをリニューアルする。 ○ 「学校だより」を家庭・地域に配付したり、ブログの更新をしたりすることにより積極的な情報公開を行う。	○ I T 支援員が配置され、学校 Web ページ をリニューアルするとともに、より親しみやすい情報発信を行っている。 ○ 学校だよりを継続的に発行し、地域へも回覧板することができた。			
		○ 開かれた学校を目指し、特色ある学校教育に努める。	○ 児童の課題克服に向けた市木ならではの教育を進める。 ○ 地域の行事等にも協力する。	○ みやぎ子ども教育週間でオープンスクールを実施した。 ○ 地域の最大行事である市木柱松に子ども柱松として参加協力することができた。			
		○ 保・小・中連携の充実を図る。	○ 小中連携授業の実施を図る。 ○ 保小連携の取組を実施する。 ○ 小高連携の取組を実施する。	○ 中学校と連携した授業研究会を実施することができた。 ○ 県立福島高等学校に配置されている A L T を活用した授業を実施することができた。 ○ 市木保育所とのふれあい集会を行い、小学生と保育園生のふれあいを図ることができた。			
教育環境整備の推進	教育環境整備	○ 学校・学級内の機能的な整頓に努める。	○ 校内施設の安全点検を定期的の実施すると共に配置の見直しを図る。	○ 体育館の耐震工事が完了した。 ○ 今年も学級を教室棟 1 階に集約し、職員が目配りができるようにした。 ○ 運動場の排水について市に要望し、応急的な処置がなされた。	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、学級園の整備を進め野菜作りをもっと体験させてほしい。 ○ 食育の視点からも野菜作りはよい。 ○ 田んぼについては、児童数の減少や周りの状況の変化等でしかたがない。 ○ 学級園の整備もよくなされている。
		○ 作品等を展示するなど、効果的な掲示に努める。	○ 計画的で、持続性に富んだ設営等を工夫し、学習環境の整備・改善に努める。	○ 校門前の掲示等職員で分担して取り組むことができた。 ○ 学級の生活目標等統一した掲示物を作り効果的な掲示ができた。			
		○ 学校・学級園等の整備を図る。	○ 計画的に学級園の整備に努める。	○ 学級園での野菜作りなど土に親しむ活動が年間を通して見られた。 ▲ プランターの植物の世話活動が不足していた。 ▲ 市米田の取組が児童数の減少や保護者の減少で難しくなっている。			